

2 0 0 8 年 (会 報 第 1 6 号)

山 行 記 録



新 津 ハ イ キ ン グ ク ラ ブ

特記事項

- ・ NO42 「節分草と四阿屋山」 担当幹事 K/T の題目
実施日が平成20年3月7日ゆえ、本文の掲載は割愛します。
- ・ 参考文献：P19 高山植物 「なるほど知図帳 日本の山」 昭文社刊

表紙のことは

写真は飯豊本山から昇るご来光を撮ったものである。随分前になるが、飯豊をあらゆるルートからアタックすることに心を燃やした時があった。

当時使った、本山ルートで、やせ尾根でアップダウンの連続のダイグラ尾根ルートは、今でも人が入れるだろうか。もう一つ残念なのは、湯の平温泉から北股岳へ直登コースも藪だらけと聞く。

特に、加治川渓谷と紅葉は絶好の撮影ポイントである。この湯ノ平コースは身近なハイキングコースであったが、山の崩落が著しく安全確保が難しい理由で通行止めとなっている。早い開通を望みます。 (F)

編集後記

当会が満13年になるが、発足当時の山行は県内や隣接県が主なテトリーだった。最近、列島の北から南までとは誇張過ぎるが、エリアが拡大した。これもひとえに幹事の山行計画に感謝したい。

次年度の山行計画をたてる幹事会になると山行の少なさで、首脳部が苦慮する。幹事に打診し、受けた人がグレードに合わせ自前の風呂敷を開き、これと思わん適所を提出する。全体調整する作業が、総会前に裏舞台で延々と続く。役員さんには頭が下がる。

ついこの間まで、飯豊や北アルプスだ、言っていたことが、今では、北海道、静岡だもっと先の京都だ。今だ踏み入れたことのない未知なる山にも思いを寄せても、一人ではなかなか決心が付かなかったが、幹事の開拓した山に女房や旦那以外の人と一緒に山行できることは胸がドキドキしなくても、新しい人との出会いで車座に握り飯を頬張りながら文学や芸術、趣味に話題を馳せると、健康で晩年を過ごせ、山を通じて友達ができ、歳を重ねても人生を楽しく過ごせることは素晴らしいことだと思う。

テレビや雑誌で山の情報を取り入れられても本当の楽しみを感じることは出来ない。目に入ってくるものからは額に汗は滲まない、リックの重さも感じない。やっぱり山の醍醐味は、現地に足を入れ五感で自然とやり取りしてその山や山系の素晴らしさを楽しむことができる。 (I)

(108) N/I

(420) Y/F

(1322) N/S